

2018年9月期 決算説明資料

2018年11月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ : 8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

2018年9月期 連結業績概況

- ✓ 減収増益ながらメッツァ先行費用をカバーできず営業損失。
- ✓ FGI単体は黒字化
- ✓ 投資銀行事業へ経営資源をシフト。投資回収等により売上総利益は、前期比39.1%増の22億円へ拡大。投資銀行事業は回復基調に。

売上総利益

投資銀行事業の新規投融資・投資回収が増加。航空機AM会社を新規連結。投資銀行事業の売上総利益は14億円増の20億円※に。（※セグ間取引消去前）

- ✓ 不動産事業子会社売却、メッツァ隣接地の証券化等により確保した資金的リソースや人的リソースを、収益性が高い本業の投資銀行事業に再配分。
- ✓ 投資銀行事業の新規投融資が増加。前期の新規投融資※は483百万円に留まったが、当期は1,953百万円に達し、当期中の収益計上にも貢献。また、次期に向けて収益獲得のための仕込も進行。
※営業投資有価証券、営業貸付金、販売用不動産、仕掛販売用不動産に計上されるものに限る。
- ✓ 不動産事業の子会社売却によって売上高は4,713百万円減となるも、以下のような利益率の高い投資銀行事業の売上が増加し、売上総利益は前期比635百万円増（39.1%増。）の2,261百万円となる。
 - ・企業投資では、ベンチャーファンドFGFの投資回収による売上総利益420百万円。
 - ・新規連結の航空機AM会社子会社の売上総利益589百万円。

営業利益

メッツァ開業準備費用等により、販管費13%増。

- ✓ エンタテインメント・サービス事業の販管費は、メッツァ開業準備の先行投資の影響で641百万円増の1,012百万円。
- ✓ 投資銀行事業の販管費は、人件費増と航空機AM会社の新規連結により、692百万円増の1,154百万円。
- ✓ 前期の不動産事業の販管費777百万円がなくなる。
- ✓ これらの結果、販管費は388百万円増の3,333百万円。売上総利益の増加だけではカバーできず、営業損失は1,072百万円（前期の営業損失は1,319百万円）となる。
- ✓ 不動産事業は原価率・販管費率が高い事業モデルのため、連結除外による営業損益への影響は軽微（前期の不動産事業のセグメント利益は149百万円）。

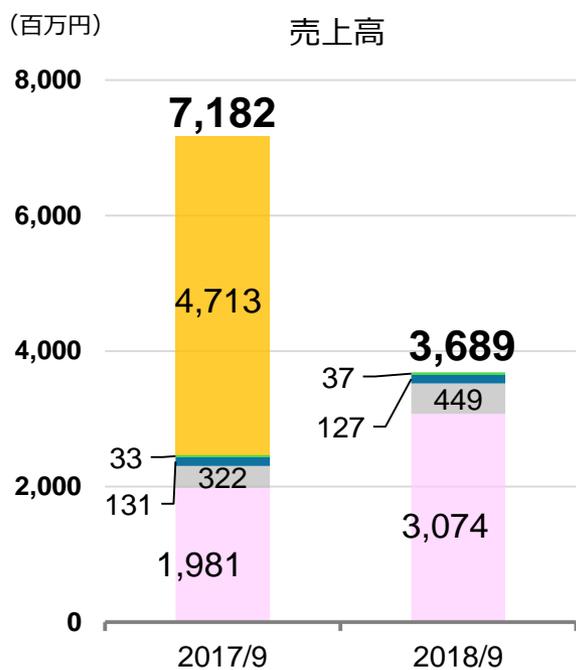
特別利益

関係会社株式売却益267百万円計上（1Q）

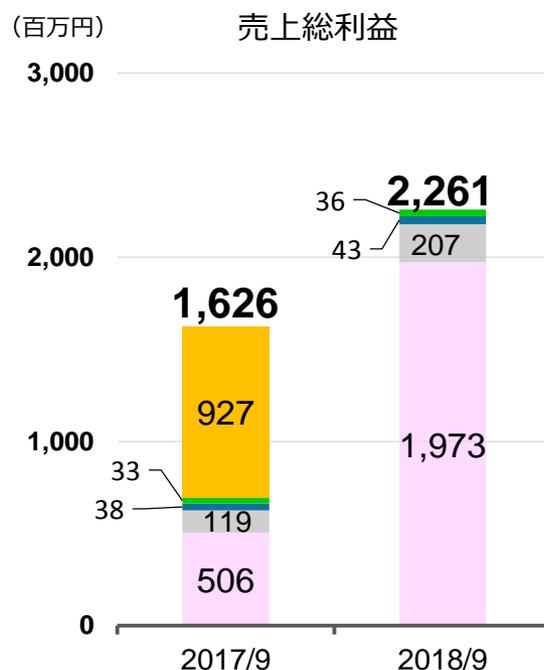
- ✓ 投資先の不動産会社の売却益267百万円は、当該会社が連結子会社であるため、営業利益ではなく、特別利益に計上。

連結業績ハイライト

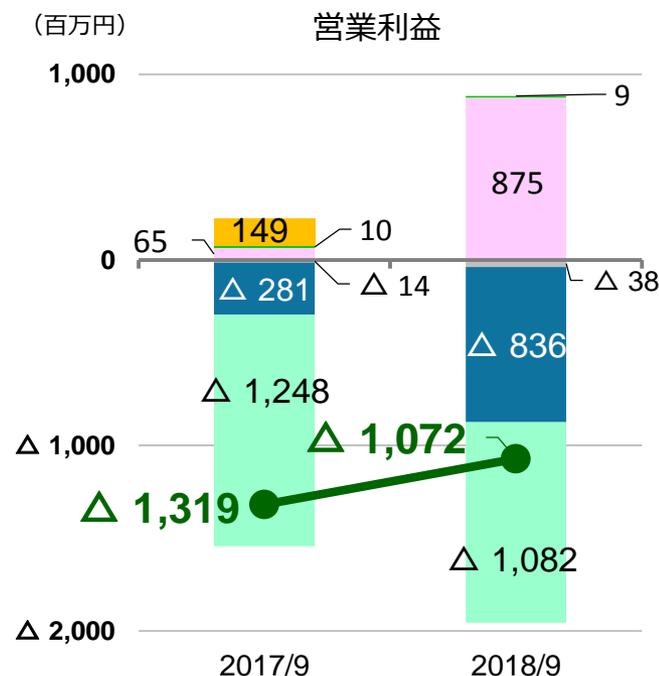
(単位：百万円)	2017年9月期	2018年9月期	前期比	業績予想 2018/5発表	業績予想比
売上高	7,182	3,689	△3,493	4,160	△470
売上総利益	1,626	2,261	635	2,600	△338
営業利益	△1,319	△1,072	246	△950	△122
経常利益	△1,341	△1,227	114	△1,160	△67
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,358	△820	538	△730	△90



セグメント間取引は消去



セグメント間取引は消去



投資銀行事業 公共コンサルティング事業 エンタテインメント・サービス事業 その他 不動産事業 全社費用又は取引消去※ 営業利益

※全社費用は主に合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費、取引消去はセグメント間取引の消去です。

セグメント別業績

【単位：百万円、各セグメントの売上高、売上総利益、営業利益はセグメント間取引を含む。】

報告セグメント		2017年9月期	2018年9月期	前年同期比	主な連結会社
投資銀行事業 ※	売上高	2,018	3,137	1,118	当社、フィンテックアセットマネジメント フィンテックグローバルトレーディング フィンテックM&Aソリューション FGIキャピタル・パートナーズ, SGI-Aviation
	売上総利益	542	2,035	1,493	
	営業利益	80	880	800	
公共コンサルティング 事業	売上高	324	457	132	パブリック・マネジメント・コンサルティング ジオプラン・ナムテック
	売上総利益	120	214	94	
	営業利益	△18	△60	△41	
エンタテインメント・ サービス事業	売上高	135	129	△5	ムーミン物語 飯能地域資源活用合同会社 虎ノ門ハム
	売上総利益	42	45	2	
	営業利益	△328	△966	△638	
その他	売上高	33	37	3	アダコテック
	売上総利益	33	36	2	
	営業利益	△2	△6	△4	
(不動産事業)	売上高	4,713	－	△4,713	(ベターライフサポートホールディングス ベルス、ユニハウス、ベターライフハウス ベターライフプロパティ)
	売上総利益	927	－	△927	
	営業利益	149	－	△149	
調整額 (セグメント間取引消去 又は全社費用)	売上高	△43	△72	△29	
	売上総利益	△40	△71	△30	
	営業利益	△1,199	△919	280	
連結 P L 計上額	売上高	7,182	3,689	△3,493	
	売上総利益	1,626	2,261	635	
	営業利益	△1,319	△1,072	246	

※ 企業投資の一環であった不動産事業のベターライフサポートホールディングス(株)の株式売却（2017年10月）については、投資銀行事業の売上高、営業利益には計上せず、特別利益（267百万円）に計上。

- ・ (株)パブリック・マネジメント・コンサルティングは、2017年9月期第2四半期より連結、飯能地域資源活用合同会社は、2017年9月期第4四半期より連結。
- ・ 不動産事業の連結子会社は、株式売却により2018年9月期第1四半期より連結除外。
- ・ SGI-Aviation Services B.V.は2018年9月期第2四半期、フィンテックM&Aソリューション(株)、(株)ジオプラン・ナムテックは2018年9月期第3四半期より連結。
- ・ 調整額（営業利益）（2018年9月期は△919百万円）には、セグメント間取引消去（2018年9月期は165百万円）及び報告セグメントに配分していない全社費用（2018年9月期は△1,084百万円）が含まれております。全社費用は、主に合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

事業、決算の詳細

- セグメント別の事業状況
- 投資銀行事業セグメント一業務別売上高、売上総利益
- 投資銀行事業の新規投融資額の推移
- 投融資残高、受託資産残高の推移
- M&A事業の取り組み活動
- メツツア開業に向けた活動
- メツツア事業 — 開発に係る投資状況
- 連結財務諸表

2018年9月期 セグメント別の事業状況

投資銀行事業

投資銀行 業務

アセット投資/AM/M&Aへ経営資源投入

- ・ 1Qより投資運用会社を新規連結。
- ・ アセット投資は、メツァに隣接する不動産の証券化、及び運用不動産売却により投資回収。
- ・ 航空機アセットマネジメント会社(SGI-Aviation Services)の持株会社の株式取得。2Qより損益を連結。
- ・ 事業承継ニーズに対応するため、M&A仲介を本格始動。

企業投資

ファンド投資の回収により、収益は大きく伸長

- ・ 米国ファンド・国内企業等への営業投資有価証券、営業貸付金としての新規投融資の総額は11億円。
- ・ FGFライフサイエンス・プロジェクトのエグジットにより420百万円の収益計上。
- ・ 投資先の不動産会社の売却益267百万円は特別利益に計上。

メツァ 事業

(メツァビレッジ
開発事業)

建設工事は、期末後の10月2日に計画通り完成引渡し

- ・ メツァビレッジ建設資金調達のため、第18回新株予約権を発行、8月10日までに全て行使。
- ・ 19.7億円（差引手取額）を調達。
- ・ 開発不動産の本格的な売却（証券化を含む）は次期以降。

エンタテインメント・ サービス事業

ムーミン物語が第三者割当増資により2018年2~11月に28億円調達 2018年10月には地域SPCが地域の金融機関から56億円の長期ローンを調達

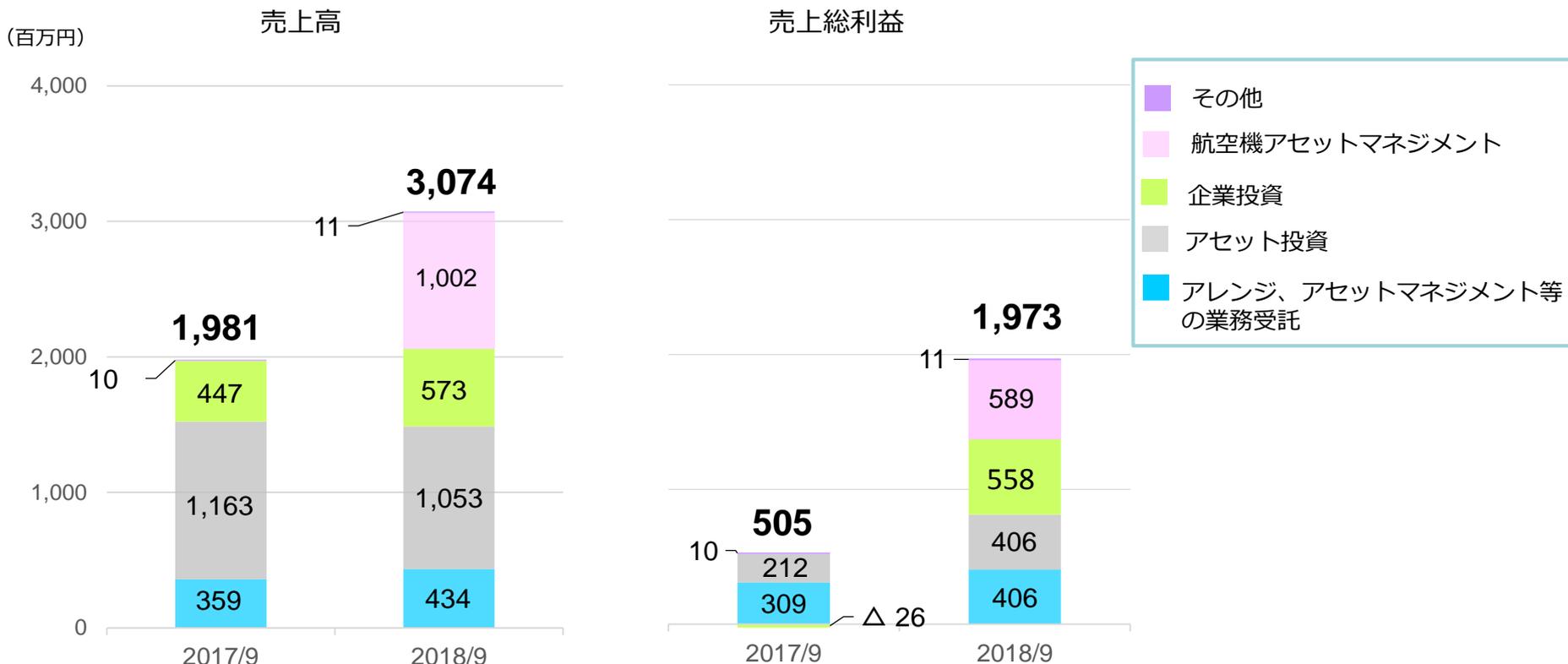
- ・ 日本のムーミンのライセンスを一括管理する㈱ライツ・アンド・ブランドズ設立し、2018年4月より営業開始、2019年9月期より連結予定。（ムーミン物語44.5%出資）
- ・ メツァビレッジ（2018年11月9日開業予定）はテナントの契約が進み11月において全店舗開店予定。
- ・ 2018年10月2日付で、ムーミンバレーパークの不動産を保有する特別目的会社の飯能地域資源利活用合同会社（地域SPC）が、2017年締結の契約に従い、金融機関4行から56億円を借入。
- ・ 内外装(動産)工事代金のため942百万円を調達するリース契約を締結。

公共コンサルティング 事業

財務書類コンサルと並行し、PPP/PFI・公営企業会計のコンサル体制整備

- ・ 市場拡大が見込まれるPPP/PFI手法の導入検討等を推進。
- ・ 既取引の地方公共団体に対して、公営企業の経営戦略策定のコンサル受託の営業活動を推進。

投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益



投資銀行事業の売上総利益は、前期比275%増。

アレンジ等の業務受託によるフィー収入は横ばいながら、企業投資はファンド投資のエグジット（投資回収）により減損があった前期から大きく伸びる。アセット投資も倍増。

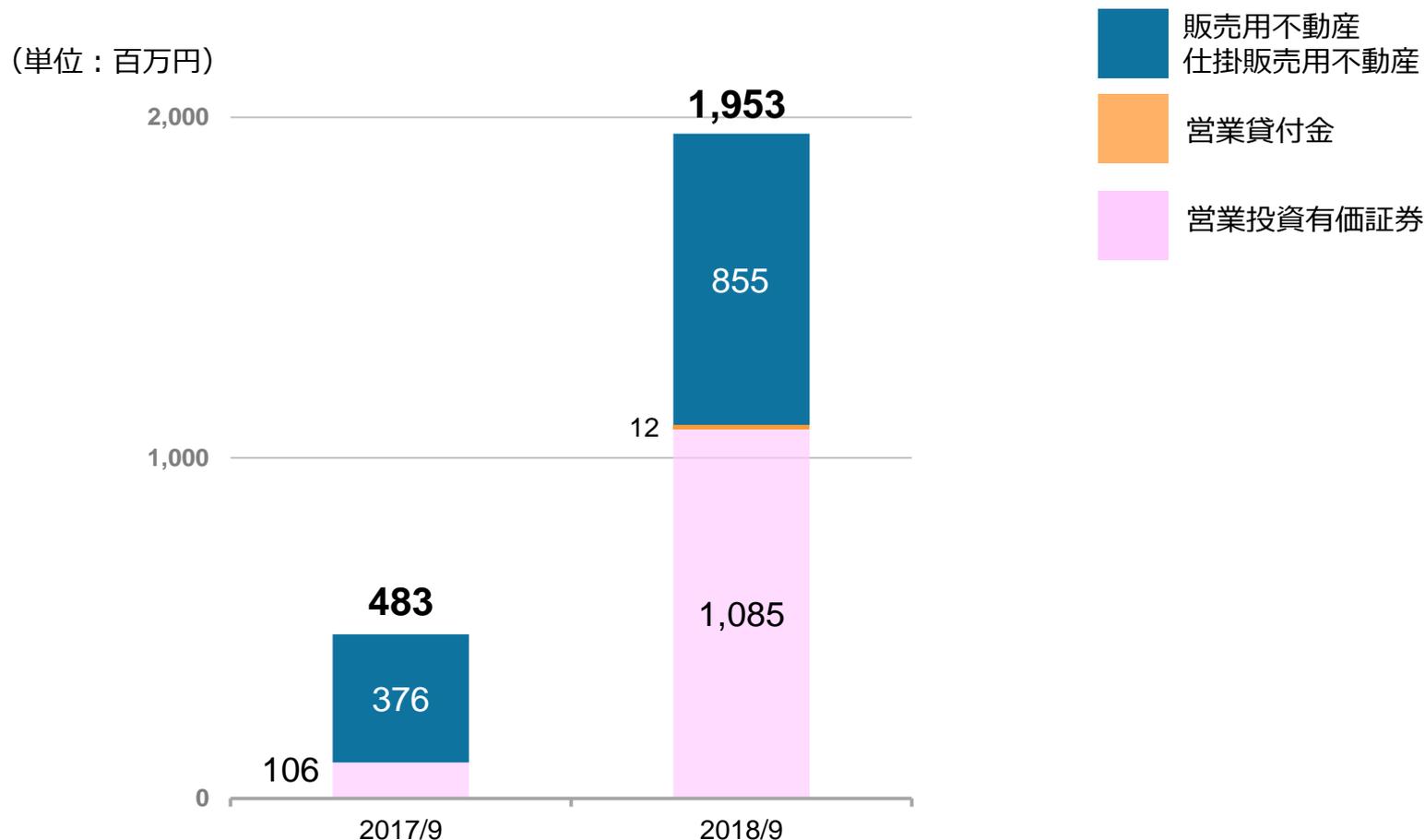
M&Aにより、航空機アセットマネジメントを行うSGI-Aviation Services等を2Qから連結し、売上総利益はさらに増加。

特別利益に計上されている不動産会社の株式売却益267百万円を加算すれば、本業は大きく伸長。

投資銀行事業の新規投融資額の推移（メツツア関連投融資を除く）

投資銀行事業の業績は、投融資資金量に依存しています

2018/9期の投融資額の増大が、投資銀行事業の業績向上に貢献しています



2017/9期・・・メツツア着工のため、資金的リソースがメツツアへ集中し、新規投融資が急減。

2018/9期・・・不動産事業子会社売却等の投融資回収により資金的リソースを獲得。新規投融資が増加。

投融資残高の推移 (FGI,FGT合計)

2018年9月期は新規投融資が増加。投融資残高は、前期末比17.4%増の74億円となる。

2018年9月期(2017/10~2018/9)の主な変動要因

- ・プリンシパルインベストメント 都市インフラ管理システム開発会社等へ新規投資(子会社化)。不動産所有SPCへ新規投資・回収。
- ・ベンチャーキャピタルファンド 米国ベンチャーファンドへ新規投資。4QにFGFの投資回収により420百万円を収益認識。
- ・企業融資 不動産事業の子会社・ムーミン物語への貸付回収。SGIグループの株式取得のため、SPCに貸付。
- ・不動産等(投資銀行事業) 運用不動産を売却するも、都心部で開発用不動産の取得。開発進行により、増加。
- ・不動産等(メツア) メツア隣接地を売却するも、メツアビレッジ建設工事進捗に伴い、増加。

当社、フィンテックグローバルトレーディングの投融資合計額 (子会社への出資を含む)

(単位:百万円)



プリンシパルインベストメント
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金、出資金の合計額。

ベンチャーキャピタルファンド
(FinTech GIMV Fund等への投資)

企業融資
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。

不動産等(投資銀行事業)
投資銀行事業における運用不動産、開発用不動産。BSでは仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。

不動産等(メツア)
メツアにおける不動産。メツアビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

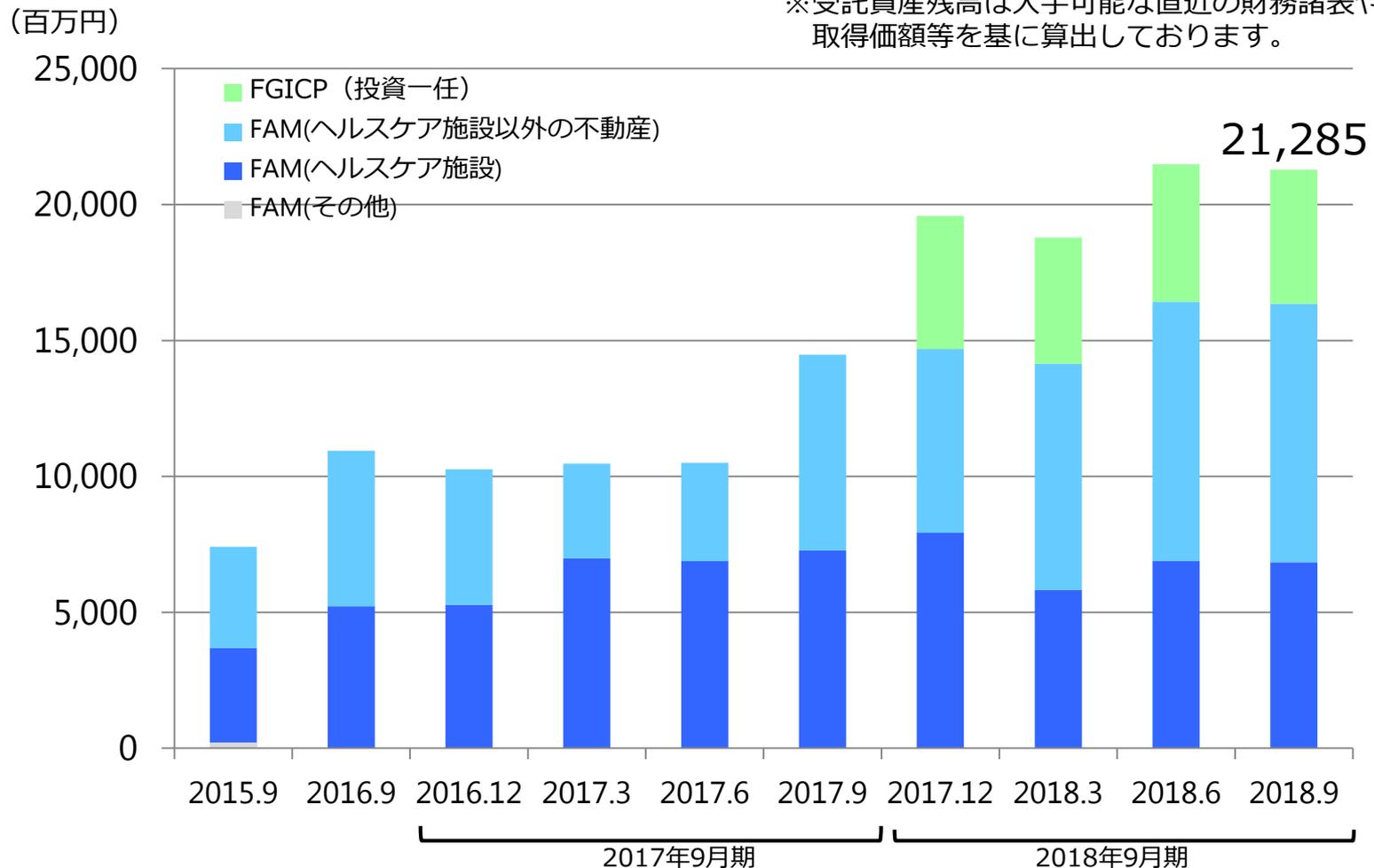
(注) FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント (FAM)
FGIキャピタル・パートナーズ (FGICP)

2018年9月期より、FGICPを新規連結。投資一任により、受託資産増。
不動産投資運用は、一部の物件売却するも、ヘルスケア施設の開発や施設リニューアル等の工事進捗によりグループの受託資産残高は前期末比47.0%増加。

※ヘルスケア施設：高齢者向け住宅を主とする施設
※受託資産残高は入手可能な直近の財務諸表や不動産の取得価額等を基に算出しております。



<事業承継ニーズに対応するため、M&A仲介を本格始動>

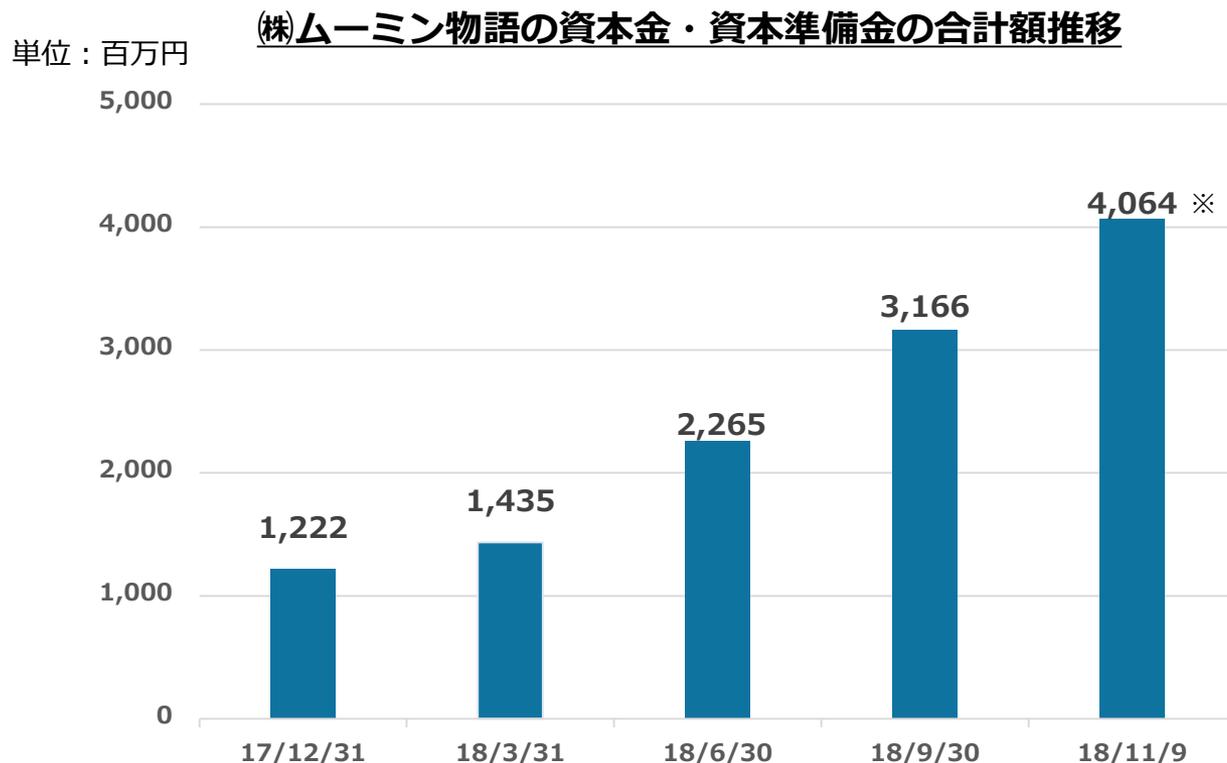
- ✓ 全国の会計事務所等とビジネスパートナー契約を締結。（2018年4月～2018年9月で109件）
- ✓ ビジネスパートナー契約先からの事業承継案件の引き合いが増加。
- ✓ 一般社団法人地方公会計研究センター会員（51社の会計事務所）のネットワークを活用し、全国の事業承継案件を収集。
※一般社団法人地方公会計研究センターは、地方公会計及び地方公営企業会計に関し、会計処理方針の検討、会計基準の提案を行うことを目的とする団体です。
- ✓ 全国のビジネスパートナー先と共同セミナーや金融機関の顧客向けセミナーを開催。
- ✓ M & Aオンラインシステム『F M A Crowdサービス(<https://fma-crowd.com/>)』の充実。

【成約案件の状況(2018年9月期実績)】

No.	譲渡企業		譲受企業	
	業種	地域	業種	地域
1	建築業	首都圏	不動産仲介業	首都圏
2	不動産賃貸業	東海	不動産賃貸業	首都圏
3	商品企画業	首都圏	小売業	首都圏
4	不動産賃貸業	首都圏	小売業	首都圏
5	不動産仲介業	首都圏	不動産賃貸業	首都圏

<(株)ムーミン物語の資本増強による財務基盤強化>

- ✓ メッツァ開業準備等の順調な進捗による企業価値の高まりと今後の事業展開（設備投資、事業運営等）を踏まえて、外部投資家等に複数回の第三者割当増資を実行。
- ✓ 当社の持株比率は2017年12月末の99%（当社出資のファンド保有の株式を含む）でしたが、2018年11月9日には54.6%となる予定。



※11/9を払込期日とする増資分を含む

メッツァ事業 — 開発に係る投資状況

(表示単位未満切捨て)

	メッツァビレッジ	ムーミンバレーパーク
契約者	発注者 フィンテック グローバル(株) 受注者 メッツァプロジェクト飯能共同企業体	発注者 飯能地域資源利活用合同会社 受注者 メッツァプロジェクト飯能共同企業体
敷地面積	16.3万㎡ (エリア全体。水面は含まず。)	7.3万㎡ (エリア全体。水面は含まず。)
延床面積	4,339㎡ (立体駐車場を含まず)	7,596㎡
スケジュール	2017年 7月 3日 着工 (土木) 2017年 7月28日 着工 (建築) 2018年10月 2日 完成引渡	2017年 7月 3日 着工 2018年10月2日 完成引渡
工事請負額	土木工事12億円・建築工事11億円 (土木は2017/6/29付契約、建築は2017/7/28付契約)	建設工事 (土木・建築) 34億円 (2017/6/29付契約)

その他の投資

主要な設備	立体駐車場 5億円	特殊内外装 20.6億円 発注者 (株)ムーミン物語 (対象：動産) 飯能地域資源利活用合同会社 (対象：不動産) 受注者 (株)乃村工藝社 日程 2018年 2月 15日 着工 2019年 1月31日 完成引渡 (予定)
設計等その他	14億円 (既支払額を含む。土地取得額は含まず。)	その他の特殊内外装 1.8億円 17.6億円 (既支払額を含む。土地取得額は含まず。)

投資総額 (暫定)

42億円

74億円

- (注) 1. 2018年9月末時点の投資額 (予定を含む) を記載しております。
2. 上記金額は、販売用不動産、仕掛販売用不動産、有形固定資産又は無形固定資産等へ計上しております (予定を含む)。

連結貸借対照表

資産の部

17年9月期 18年9月期 増減

	17年9月期	18年9月期	増減
流動資産	10,122,083	9,881,308	△ 240,774
現金及び預金	3,219,805	4,267,738	1,047,932
1 受取手形・売掛金	196,840	644,824	447,984
2 営業投資有価証券	1,069,032	1,017,184	△ 51,847
営業貸付金	609,147	576,924	△ 32,223
3 販売用不動産	2,287,519	304,516	△ 1,983,003
4 仕掛販売用不動産	2,556,159	2,781,914	225,755
商品	10,084	15,298	5,214
その他	257,235	390,140	132,905
貸倒引当金	△ 83,739	△ 117,232	△ 33,492
固定資産	2,810,440	4,134,963	1,324,522
5 有形固定資産	2,238,234	3,317,713	1,079,479
6 無形固定資産	38,609	343,188	304,578
投資その他の資産	533,596	474,061	△ 59,534
資産合計	12,932,524	14,016,272	1,083,747

1 SGI-Group、ジオプラン・ナムテックの新規連結により増加。

2 米国ベンチャーファンド等への新規投資するも、投資回収により微減。

3 不動産事業子会社の連結除外、メッツァ隣接地・投資運用不動産売却により減少。

4 不動産事業子会社の連結除外により減少するも、不動産案件投資、メッツァビレッジ工事代金支払により増加。

5 不動産事業子会社の連結除外により賃貸用不動産等が減少するも、ムーミンバレーパーク工事により建設仮勘定増加。

6 SGI-Group、ジオプラン・ナムテックの株式取得により、のれんが増加。

7 不動産事業子会社の連結除外により短期借入金、長期借入金減少。メッツァのSPC借入2,000百万円(注)を長期借入金から1年内返済予定の長期借入金へ振替。
(注) 2018/10/2のメッツァの竣工時に当該借入返済。金融機関等が当該SPCに対し貸付を実行。当社グループ外から56億円を調達。

負債の部

(単位：千円)

17年9月期 18年9月期 増減

	17年9月期	18年9月期	増減
流動負債	3,785,430	4,803,592	1,018,161
支払手形・買掛金	152,025	293,215	141,189
7 短期借入金	2,751,380	—	△ 2,751,380
1年内償還予定の社債	30,000	—	△ 30,000
1年内返済予定の長期借入金	293,847	3,586,081	3,292,233
未払法人税等	42,335	73,216	30,880
賞与引当金	72,795	114,928	42,133
その他	443,045	736,150	293,105
固定負債	3,820,631	661,528	△ 3,159,102
社債	30,000	—	△ 30,000
7 長期借入金	3,513,399	532,787	△ 2,980,612
繰延税金負債	113,485	1,438	△ 112,046
退職給付に係る負債	119,661	91,640	△ 28,020
その他	44,085	35,662	△ 8,422
負債合計	7,606,062	5,465,120	△ 2,140,941

純資産の部

	17年9月期	18年9月期	増減
株主資本	4,800,789	7,313,879	2,513,089
8 資本金	4,549,016	5,551,419	1,002,402
資本剰余金	1,812,727	4,149,561	2,336,833
利益剰余金	△ 1,560,954	△ 2,387,101	△ 826,146
その他の包括利益累計額	△ 530	△ 2,588	△ 2,057
新株予約権	50,142	54,605	4,463
9 非支配株主持分	476,060	1,185,254	709,194
純資産合計	5,326,461	8,551,151	3,224,689
負債純資産合計	12,932,524	14,016,272	1,083,747

8 第18回新株予約権行使により資本金、資本剰余金が増加。ムーミン物語の増資により資本剰余金が増加。

9 ムーミン物語の増資等により増加。

連結損益計算書

(単位：千円)

	2017年9月期	売上比	2018年9月期	売上比	増減額	増減率
売上高	7,182,376	100.0%	3,689,183	100.0%	△ 3,493,192	△ 48.6%
売上原価	5,556,332	77.4%	1,427,968	38.7%	△ 4,128,364	△ 74.3%
売上総利益	1,626,043	22.6%	2,261,215	61.3%	635,171	39.1%
販売費及び一般管理費	2,945,209	41.0%	3,333,458	90.4%	388,249	13.2%
営業損失 (△)	△ 1,319,165	△ 18.4%	△ 1,072,243	△ 29.1%	246,922	—
営業外収益	93,131	1.3%	12,706	0.3%	△ 80,425	△ 86.4%
営業外費用	115,722	1.6%	168,020	4.6%	52,297	45.2%
経常損失 (△)	△ 1,341,756	△ 18.7%	△ 1,227,557	△ 33.3%	114,199	—
特別利益	11,595	0.2%	301,367	8.2%	289,771	2,498.9%
特別損失	41,013	0.6%	40,192	1.1%	△ 820	△ 2.0%
税金等調整前当期純損失 (△)	△ 1,371,173	△ 19.1%	△ 966,383	△ 26.2%	404,790	—
法人税等	9,775	0.1%	29,789	0.8%	20,013	204.7%
当期純損失 (△)	△ 1,380,949	△ 19.2%	△ 996,173	△ 27.0%	384,776	—
非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 22,636	△ 0.3%	△ 176,068	△ 4.8%	△ 153,432	—
親会社株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 1,358,313	△ 18.9%	△ 820,104	△ 22.2%	538,209	—

1 航空機アセットマネジメント会社を新規連結するも、不動産事業子会社の株式売却による連結除外（同事業の前期売上4,713百万円）等により 売上高48.6%減、売上原価74.3%減。

2 不動産事業の費用（前期は777百万円）がなくなるも、メツア開業準備の先行投資や、新規連結子会社による費用計上、本社移転により一時的に地代家賃等増加により、販管費13.2%増。

3 メツア不動産保有のSPC等の支払利息71百万円、外貨建ベンチャーファンドへの投資等に係る為替差損23百万円。

4 不動産事業の子会社株式売却による関係会社株式売却益267百万円。

5 ムーミン物語の第三者割当増資によって、非支配株主に帰属する当期純損失が増加。

業績見通し、株主還元

連結業績予想

(単位：百万円)	2018年9月期 実績	2019年9月期 予想値	前期比	(参考) 2018/5発表 2019年9月期目標値
売上高	3,689	11,040	7,351	9,600
売上総利益	2,261	6,880	4,619	6,800
営業利益	△1,072	510	1,582	500
経常利益	△1,227	310	1,537	300

メツツア運営収入、投資銀行事業の投資回収等によって売上、業績伸長も、ムーミンバレーパークの業績への貢献は、約6か月分。開業が近づき先行費用は更に増加するため、利益の伸びは限定的。

- ・ **投資銀行事業に係る投融資資金は、2018年11月8日開催の取締役会で発行を決議した第19回新株予約権によって調達する予定であり、上記の業績予想は当該調達を前提とした事業計画に基づき、算出しております。**
- ・ **親会社株主に帰属する当期純利益は、開示を控えさせていただきます。**

本年、株式会社ムーミン物語は開業資金の調達のため、複数の第三者割当増資を行ってまいりました。今後も引き続き行っていく方針ですが、これにより非支配株主持分が増加し親会社株主に帰属する当期純利益に影響を与えることが考えられます。この結果は投資家の動向にもよることから、現時点で合理的に予想することは困難であるため、親会社株主に帰属する当期純利益は、開示を控えさせていただきます。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

セグメント別業績予想

報告セグメント		2018年9月期	2019年9月期 (予想値)	
投資銀行事業	売上高	3,137	4,070	<ul style="list-style-type: none"> ・調達資金により投融資を活発化。 ・利益面はM&A仲介やアセット投資（資産保有会社の株式取得・売却等の手法）が貢献。 ・前期に続き、ファンド投資回収を予定。
	売上総利益	2,035	2,430	
	営業利益	880	1,030	
公共コンサルティング事業	売上高	457	650	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大見込のPPP/PFI手法の導入検討や公営企業会計適用推進。 ・2018年9月期第3四半期に連結した(株)ジオプラン・ナムテックが通期を通じて貢献。
	売上総利益	214	300	
	営業利益	△60	20	
エンタテインメント・サービス事業	売上高	129	6,500	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年11月にメッツアビレッジ開業、2019年3月にムーミンバレーパーク開業。 ・開業効果による売上伸長を見込むが、開業前準備の費用負担が重い。 ・(株)ライツ・アンド・ブランドズを2019年9月期から連結。ムーミンバレーパークでオリジナル商品などを販売予定。
	売上総利益	45	4,330	
	営業利益	△966	480	
その他	売上高	37	60	(株)アダコテックは様々な産業界での技術採用により、黒字化見込。
	売上総利益	36	60	
	営業利益	△6	10	
調整額 (セグメント間取引消去又は全社費用)	売上高	△72	△240	人件費等の全社費用が増加
	売上総利益	△71	△240	
	営業利益	△919	△1,030	
連結P L計上額	売上高	3,689	11,040	
	売上総利益	2,261	6,880	
	営業利益	△1,072	510	

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2019年9月期は、更に投資銀行事業へ経営資源を投入。
メツツアは、着実な運営立ち上げと集客強化による収益基盤確立を目指す。

2018年10月の組織変更等により、金融商品の組成・販売や、M&A仲介等の拡大のための体制を整備。顧客基盤強化へ。

- 従来のアレンジメントや公会計コンサル等において、組成案件に融資する金融機関や地方公共団体の公会計の実務をサポートする税理士・会計士等のネットワークを更に拡大。
- 不動産小口化投資商品等の金融商品を組成。開拓した顧客に販売。顧客ニーズに応えるため、組成する金融商品のラインナップや金融サービスも拡大し、提供する価値を広範化。
- M&A仲介及びまた事業承継コンサルを充実。
- アセット投資は、動産を含む様々な領域へ拡大。
- 不動産AMは投資家ニーズに応じた投資戦略によるファンド組成で受託資産拡大。

新規投資とその価値向上・価値実現策を投資先に応じて深化

- 有望な新規投資先や事業分野の開拓を進め、投資額を拡大。
- 投資エグジットのため、投資先支援等により、投資価値の向上させ価値実現へ。

投資銀行
業務

企業投資

投資銀行事業

エンタテインメント・サービス事業

着実な運営立ち上げと集客強化により、収益基盤確立を目指す。

【メッツァビレッジ（2018年11月オープン）】

- 2018年11月オープンのメッツァビレッジ運営による着実な立ち上げとベース収益の確保。
- イベント（上半期はチームラボ）実施により、集客を拡大させ、飲食施設等や外部テナントの収益の安定化と更なる増大を図る。

【ムーミンバレーパーク（2019年3月オープン）】

- 開業に向けてプロモーションを強化、入場料収益の確保を狙う。
- 物販事業では、パークオリジナル商品の企画販売を行うとともに、シーズン毎の新商品の投下を行い、販売促進を図る。
- 飲食事業では、様々な形態（レストラン、カフェ、カート販売等）による飲食を提供。多様なニーズに応え、収益を確保。

公共コンサルティング事業

既存顧客からの継続受注と新規取引先の開拓

- 公会計事業は、財務書類作成支援の継続受注と新規取引先の開拓。
- 都市インフラ管理システム開発に係る事業は、保守案件等の受注を基礎に売上確保。さらに受注チャネルを拡大させる。

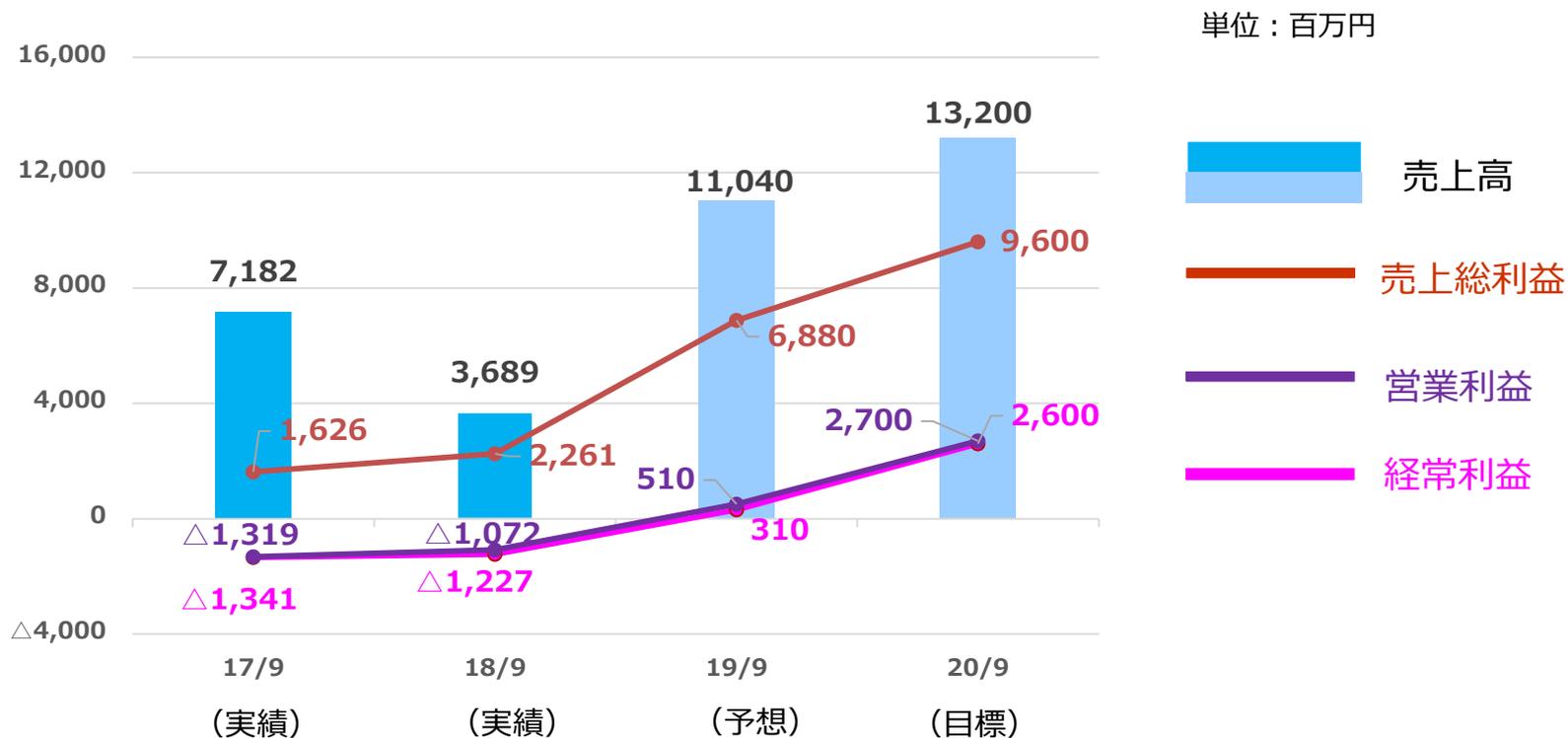
投資商品組成等を目的として、第19回新株予約権発行を決議

2018年11月8日開催の取締役会で、第三者割当による第19回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行を決議。2018年12月4日付で発行予定。以下①②を資金使途として、投資銀行事業の業績向上に寄与する。

- ①不動産小口化投資商品組成のための不動産（信託受益権を含む）取得
- ②新たな投資商品組成及びM&A対応

項目	内容
名称	フィンテック グローバル株式会社第19回新株予約権（第三者割当）
割当予定日	2019年12月4日
発行価額	総額9,750,000円（新株予約権1個当たり65円） 但し、株価変動等諸般の事情を考慮の上で本新株予約権に係る最終的な条件を決定する日として当社取締役会が定める2018年11月15日から2018年11月19日までの間のいずれかの日（以下「条件決定日」という。）において、上記発行価額の決定に際して用いられた方法と同様の方法で算定された結果が上記の金額（65円）を上回る場合には、条件決定日における算定結果に基づき決定される金額とする。 発行価額の総額は、新株予約権1個当たりの金額に本新株予約権の総数である150,000個を乗じた金額となる。
発行による潜在株式数	15,000,000株 （新株予約権1個につき100株、発行済株式総数対比8.1%）
上限行使価額及び 下限行使価額	上限行使価額はない。 下限行使価額は条件決定日の直前取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（同日に終値がない場合には、その直前の終値）（以下「条件決定基準株価」という。）の50%に相当する金額とするが、下限行使価額においても、潜在株式数は15,000,000株である。 総額2,529,750千円（うち、本新株予約権の発行による調達額9,750千円、行使による調達額2,520,000千円）
調達する資金の総額	本新株予約権の発行による調達額は、発行決議日の直前取引日における終値等の数値を前提として算定した仮定の金額であり、また、行使による調達額は、発行決議日の直前取引日における終値を当初行使価額であると仮定し、かかる仮定の当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であるが、実際の本新株予約権の発行による調達額及び当初行使価額は条件決定日に決定される。 当初行使価額は条件決定基準株価とする。
行使価額及び 行使価額の修正条件	2018年12月5日以降、行使価額は、本新株予約権の各行使請求の効力発生日の直前取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（同日に終値がない場合には、その直前の終値）の90%に相当する金額に修正されるが、かかる計算によると修正後の行使価額が下限行使価額を下回ることとなる場合には、下限行使価額を修正後の行使価額とする。
募集又は割当方法	第三者割当ての方法による
割当先	パークレイズ・バンク・ピーエルシー
行使期間	2018年12月5日～2020年12月4日
資金使途	①不動産小口化投資商品組成のための不動産（信託受益権を含む。）取得 1,500百万円 ②新たな投資商品組成及びM&A対応 1,009百万円
支出予定期間	①2018年12月～2019年9月 ②2018年12月～2020年9月

経営計画（2020年9月期の目標値は2018年5月公表数値から変更無し）



2019年9月期

- ・本業の投資銀行事業に対し、人的・資金的リソースをさらに配分。不動産小口化投資商品組成・販売やアセット投資、M&A仲介による売上を見込む。ファンド投資も一部回収。
- ・2018年11月 メッツァビレッジ開業。テナント賃料、駐車場収入、レストラン運営等の売上。
- ・2019年3月 ムーミンバレーパークグランドオープン。入場料、有料施設、飲食・物販収入等の売上。
- ・(株)ライツ・アンド・ブランドズを連結。ムーミンのテーマパーク事業とライセンス事業の相乗効果を見込む。
- ・メッツァの人件費等の負担が大きくなる一方で、ムーミンバレーパークの運営収益は下半期のみ。

2020年9月期

- ・メッツァビレッジ、ムーミンバレーパークの運営収益を年間で取込。業績大幅伸長を見込む。

当期配当、次期配当見込み

【基本方針】

経営基盤の強化と拡大する事業を迅速かつ確実に捉えるために、十分な内部留保金を維持することに留意しつつ、株主の皆様へ利益を還元することが配当政策上重要であると考え、業績の状況や将来の事業展開などを総合的に勘案して配当することを基本としています。

【当期配当】

配当原資である個別貸借対照表のその他利益剰余金が△1,013百万円となっております。このため、誠に遺憾ではございますが、期末配当は見送りとさせていただきます。

【次期配当】

次期の期末配当は、今後の業績動向を見極めた上で、判断していく方針のため、未定とさせていただきます。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

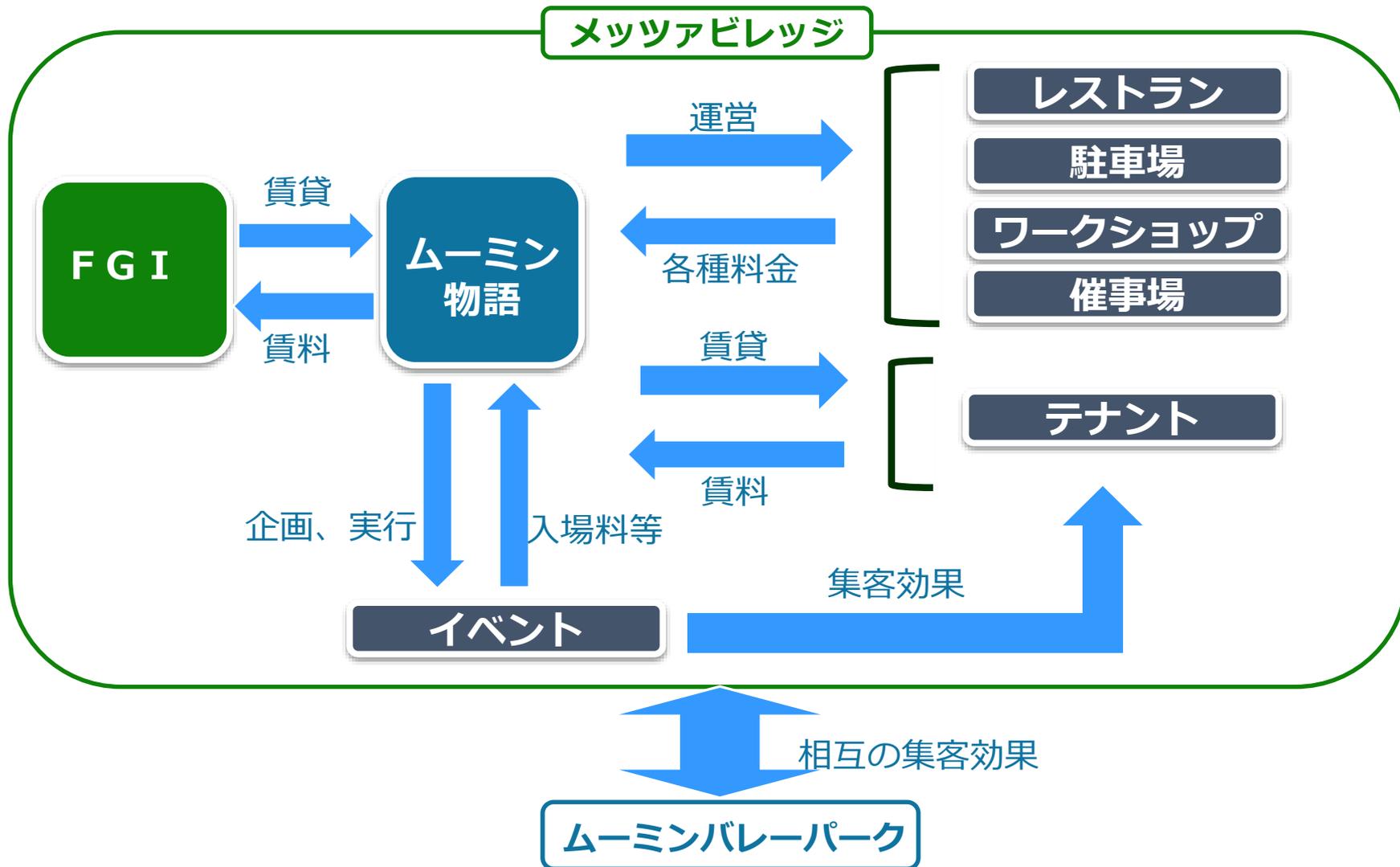
<2019年3月31日を基準日として、メッツァに係る株主優待を実施>

- ✓ 株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、メッツァ開業を記念して、メッツァ開業記念株主優待を実施することといたしました。
- ✓ 2019年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された一定の株式数以上を保有されている株主様を対象に、メッツァに係る株主優待を実施する予定です。
- ✓ 実施する方針とした株主優待は今回のみ行う記念優待であります。今後につきましては現時点では未定であり、当社の株主還元策を総合的に勘案して検討していく方針であります。

メツツア事業の取組概要

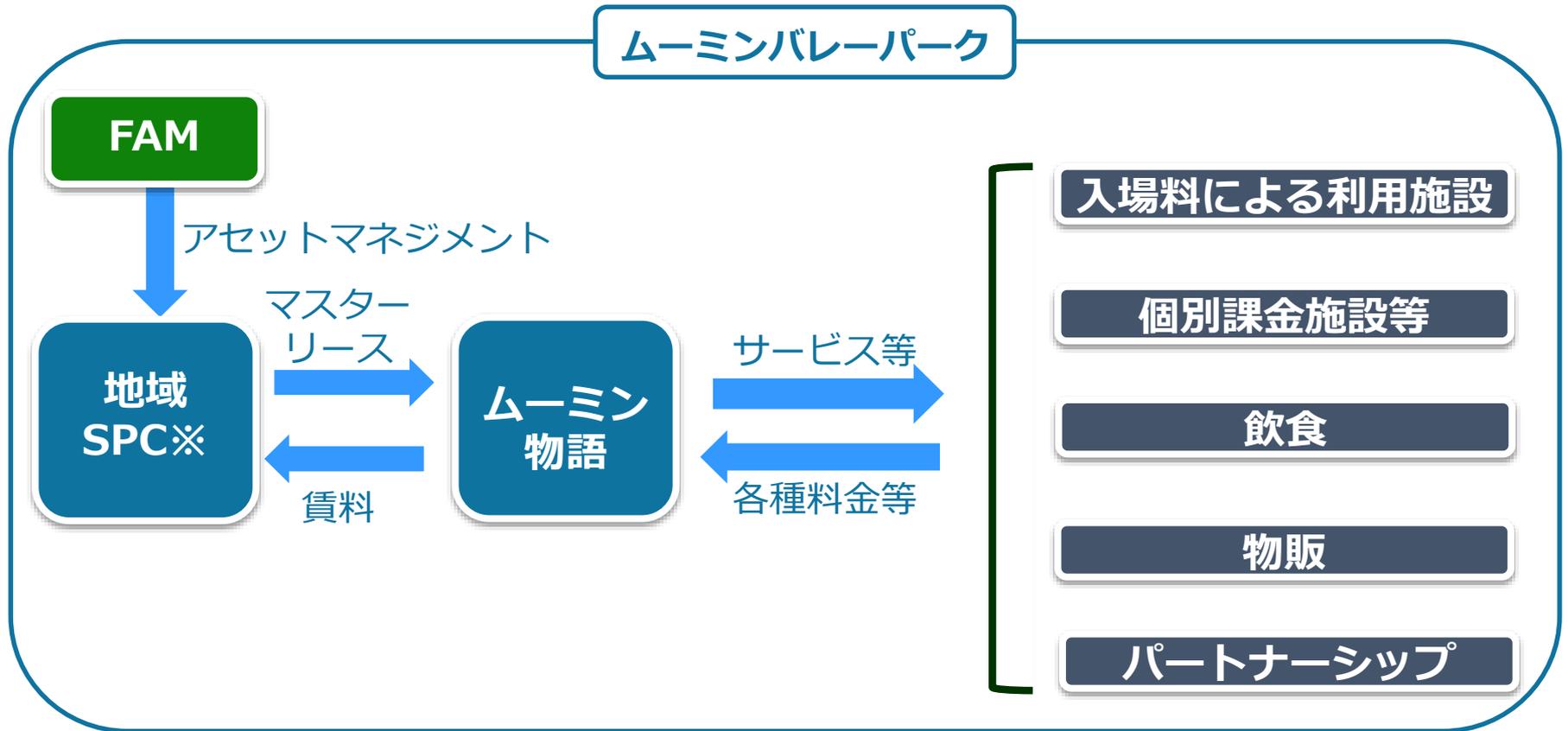
メッツァ事業 — 収益構造（メッツァビレッジ — 2018年11月9日開業）

FGIがムーミン物語にマスターリース。ムーミン物語が施設を自社運営、又はテナントに賃貸。ムーミンバレーパークに加えてメッツァビレッジも一体として運営を行うことで、メッツァ全体としての魅力を高め、集客の最大化及び事業収益の多様化を図る。

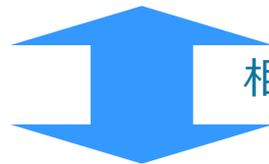


メッツァ事業 — 収益構造（ムーミンバレーパーク — 2019年3月16日開業）

特別目的会社の地域SPCが不動産をムーミン物語に賃貸。ムーミン物語がテーマパーク運営、飲食事業及び物販事業を行う。その他、パートナーシップ収入もあり。



※ムーミンバレーパークの不動産を保有・管理するために組成された特別目的会社（SPC）です。正式名称は飯能地域資源利活用合同会社であり、当社の連結子会社となっています。



相互の集客効果

メッツァビレッジ

メッツァビレッジ 施設配置

北欧のライフスタイルを体験できるメッツァビレッジが、2018年11月9日オープン



アート集団チームラボと「チームラボ 森と湖の光の祭」を開催
人気の展覧会を実施し、メッツァの集客力、知名度を高めます

“屋外”でのアート空間の創出で注目されるチームラボが、宮沢湖と湖畔の森の豊かな自然と調和し、人々の存在によって変化する、本格的なインタラクティブな光のアート空間を生み出します。

会期： 2018年12月1日（土）～2019年3月3日（日）

【展示作品】

- ・ 呼応する、たちつづけるものたちと森 / Resisting and Resonating Ovoids and Forest
- ・ 自立しつつも、呼応する生命 / Autonomous Resonating Life(仮タイトル)
- ・ 浮遊する、呼応する球体 / Floating, Resonating Spheres



展示詳細： <https://www.teamlab.art/jp/e/metsavillage/>

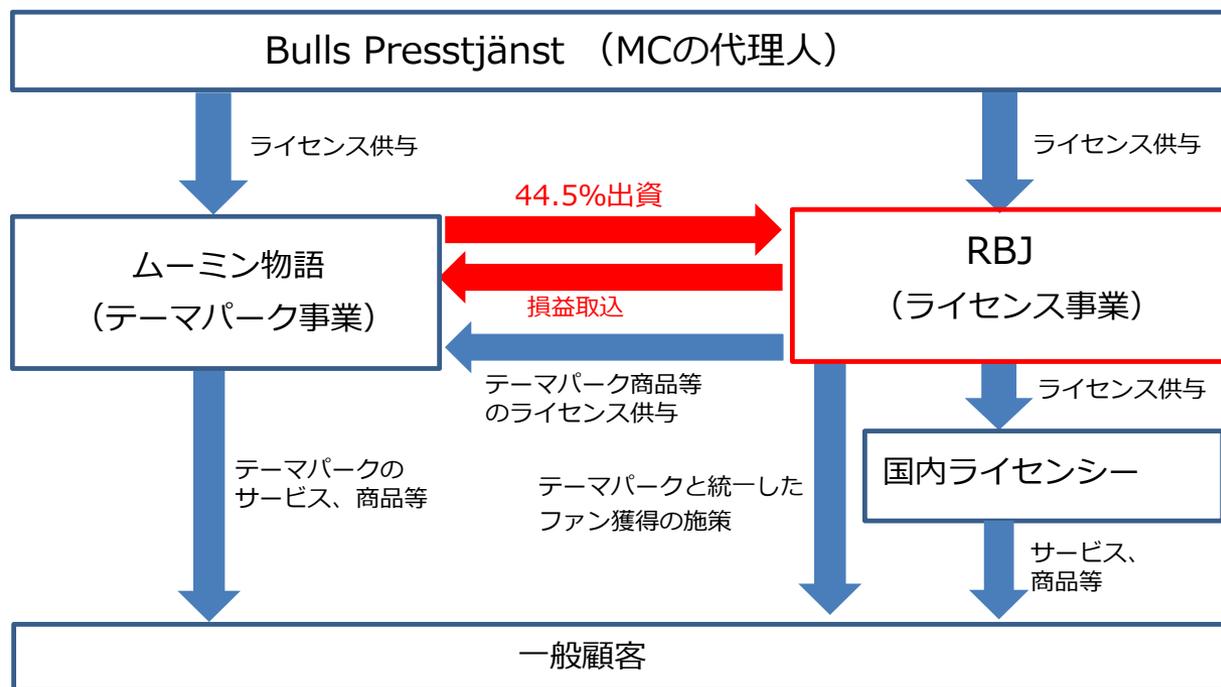
ムーミンのライセンス管理会社の子会社化—メッツァ事業の更なる拡大

2019年9月期より、(株)ライツ・アンド・ブランズ (RBJ) を連結子会社化

- ✓ ムーミン物語が出資する (44.5%) 日本のムーミンのライセンスを一括管理する会社 (株)ライツ・アンド・ブランズ (RBJ) (2018年3月16日設立、4月より営業開始) を2019年9月期より、連結の範囲に含めます。
- ✓ ライセンス事業、テーマパーク事業が統一した戦略をとり、また中長期的な視野から事業領域を積極的に開拓することで、ムーミンのブランドバリューを一層向上させ、新たなファン層を取り込み更なる市場の拡大を実現することを目指します。

今後の事業 (予定)

ムーミン物語とRBJが、ファン獲得のための統一した施策を実行します



参考資料

- 個別財務諸表（貸借対照表、損益計算書）
- 連結経営指標等の推移（6期分）
- 会社概要

個別貸借対照表

資産の部

17年9月期 18年9月期 増減

	17年9月期	18年9月期	増減
流動資産	6,090,329	7,922,667	1,832,337
現金及び預金	1,801,547	2,962,551	1,161,004
売掛金	6,646	88,795	82,148
営業投資有価証券	970,092	922,928	△ 47,164
営業貸付金	609,147	574,878	△ 34,269
短期貸付金	1,998,294	257,690	△ 1,740,604
販売用不動産	346,503	304,516	△ 41,987
仕掛販売用不動産	407,183	2,781,914	2,374,731
その他	192,498	326,263	133,765
貸倒引当金	△ 241,583	△ 296,871	△ 55,287
固定資産	2,545,382	3,296,783	751,400
有形固定資産	500,242	775,844	275,602
無形固定資産	19,278	13,859	△ 5,419
投資その他の資産	2,025,862	2,507,079	481,217
資産合計	8,635,712	11,219,450	2,583,737

負債の部

(単位：千円)

17年9月期 18年9月期 増減

	17年9月期	18年9月期	増減
流動負債	649,984	929,733	279,749
買掛金	1,249	180,654	179,405
短期借入金	225,000	95,000	△ 130,000
1年内返済予定の長期借入金	144,866	289,527	144,661
未払金	52,203	39,030	△ 13,172
預り金	89,525	159,741	70,216
前受金	19,995	294	△ 19,700
賞与引当金	38,446	22,740	△ 15,706
その他	78,699	142,745	64,046
固定負債	2,297,051	2,532,261	235,210
長期借入金	2,173,634	2,428,135	254,501
退職給付引当金	91,842	87,128	△ 4,714
その他	31,574	16,998	△ 14,576
負債合計	2,947,035	3,461,995	514,959

純資産の部

株主資本	5,640,763	7,702,130	2,061,366
資本金	4,549,016	5,551,419	1,002,402
資本剰余金	2,114,239	3,116,641	1,002,402
利益剰余金	△ 1,022,492	△ 965,930	56,562
評価・換算差額等	—	11,861	11,861
新株予約権	47,913	43,463	△ 4,450
純資産合計	5,688,677	7,757,455	2,068,777
負債純資産合計	8,635,712	11,219,450	2,583,737

個別損益計算書

(単位：千円)

	2017年9月期	売上比	2018年9月期	売上比	増減額	増減率
売上高	1,066,971	100.0%	1,538,691	100.0%	471,719	44.2%
売上原価	671,579	62.9%	327,210	21.3%	△ 344,368	△ 51.3%
売上総利益	395,392	37.1%	1,211,480	78.7%	816,088	206.4%
販売費及び一般管理費	1,547,678	145.1%	1,524,638	99.1%	△ 23,040	△ 1.5%
営業利益	△ 1,152,286	△ 108.0%	△ 313,157	△ 20.4%	839,128	—
営業外収益	168,376	15.8%	159,773	10.4%	△ 8,602	△ 5.1%
営業外費用	70,941	6.6%	99,099	6.4%	28,158	39.7%
経常利益	△ 1,054,851	△ 98.9%	△ 252,483	△ 16.4%	802,367	—
特別利益	18,697	1.8%	369,098	24.0%	350,401	1,874.1%
特別損失	1,439	0.1%	41,747	2.7%	40,308	2,800.9%
税引前当期純利益	△ 1,037,593	△ 97.2%	74,867	4.9%	1,112,460	—
法人税等	△ 20,333	△ 1.9%	18,304	1.2%	38,638	—
当期純利益	△ 1,017,259	△ 95.3%	56,562	3.7%	1,073,822	—

連結経営指標等の推移

		2013年 9月期	2014年 9月期	2015年 9月期	2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期
売上高	(百万円)	1,603	3,911	5,429	7,485	7,182	3,689
売上総利益	(百万円)	1,468	2,398	2,495	1,496	1,626	2,261
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	△ 31	555	115	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	88	684	237	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	182	923	224	△ 1,384	△ 1,358	△ 820
純資産額	(百万円)	2,716	5,534	7,879	6,312	5,326	8,551
総資産額	(百万円)	4,770	7,452	11,958	10,975	12,932	14,016
1株当たり純資産額	(円)	22.23	37.41	48.31	38.66	29.64	39.31
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額(△)	(円)	1.52	6.92	1.48	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	1.52	6.89	1.47	-	-	-
自己資本比率	(%)	56.4	73.9	65.4	57.0	37.1	52.2
自己資本利益率	(%)	7.2	22.5	3.4	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5
株価収益率	(倍)	21.9	9.2	84.7	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 464	△ 2,208	△ 1,791	△ 1,305	△ 1,153	△ 2,978
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	85	509	△ 644	△ 302	△ 1,026	△ 2,008
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 128	2,065	4,761	△ 751	2,937	5,771
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	1,644	2,024	4,612	2,240	2,969	3,847
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	51(13)	109(7)	117(8)	114(20)	143(27)	157(42)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	26(3)	24(3)	38(3)	45(8)	40(6)	38(5)

当社は、2014年4月1日を効力発生日として、1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、当該株式分割が2013年9月期の期首に行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階		
設立	1994年12月7日		
代表	代表取締役社長 玉井 信光		
上場日	2005年6月8日		
証券コード	8789 (東京証券取引所マザーズ市場)		
事業年度	10月1日から9月30日まで		
事業内容	①投資銀行事業 ②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業		
発行済株式総数	185,986,400株 (2018年9月30日現在)		
単元株式数	100株		
資本金	5,551百万円 (2018年9月30日現在)		
連結純資産	8,551百万円 (2018年9月30日現在)		
大株主 (2018年9月30日現在)	玉井 信光	20,095,500	(11.80%)
	藤井 優子	3,576,400	(1.92%)
連結従業員数	157名 (2018年9月30日現在、臨時従業員含まず)		

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2018年9月期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」といいます）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

FGI

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

フィンテック グローバル株式会社

<http://www.fgi.co.jp/>